

「2024年韓国・延世大学校スプリングスクール派遣報告書」

京都大学薬学部2年 郡山 七奈

今回のプログラムに参加する前後で感じた変化は韓国語の習熟度の上昇、目標の定め方の大きく分けて二つであったように感じる。まず、韓国語に関しては渡航前は文法についてほとんど知らず、リスニングのみでできる状態であったが、基本的な文法の授業と自習によって文の作り方や発音の変化の仕方を学習することができ、韓国語の能力が全体的に向上したと実感した。そしてさまざまなバックグラウンドを持つ人たちとの交流を通して、京都大学にいて生活しているだけでは考えられないような選択肢を持って生きている人がたくさんいるという事実には驚いた。このプログラムに参加するほとんどの学生は韓国語の上達か日韓関係に興味があるという理由をあげると思うが、実際に延世の教室であった人たちは韓国という国に来て新たなインスピレーションを得ることが目的の人もいればそもそも言語の学習が二次的な目的であるという人もいた。何か新しいことを始めてみるのにあまり真面目すぎる理由は必要ないのかもしれないなという考えを持つことができるようになったと思う。

海外での生活ではやはり現地の人との交流がもっとも大切だったと思う。個人的に韓国で生活していて感じたのは、個人個人が自分の生活に集中しているからなのか他人に対して良い意味であまり関心を持ちすぎているところだと思った。例えば道を歩いているときに日本であれば通り過ぎる人と目が合うことが多いし、公共交通機関を利用している際にも目が合うことが多々あるが、韓国ではそのどちらもなかったように感じる。この理由を韓国の友人に聞いたところ、特に外見に関しては自己管理ができていようかどうかだから、遺伝的な要因で決まるような身長など以外、他人の見た目は気に留めないで生活しているのだそう。こういった違いは身をもって経験しないと感じられないことであるし、現地の人々の考えを直接聞いてみないとわからないものであるから面白いと感じた。

プログラムの内容は韓国語の習得に主眼を当てて効率よく学習できるように組まれていたと思う。個人的には授業が難しいと感じたことも課題が多いと感じたこともなかったため、比較的余裕を持って生活することができたと感じるし、基礎をしっかりと学べたことで日本に帰ってきてからの学習がしやすくなったと感じる。

今回のプログラムを通して、留学というものにより興味を持つきっかけになったと感じる。元々漠然と将来は研究留学ができればいいなと考えていたが、より明確にどの国に何を目的にいつ留学したいのか、どうやって留学するのかをしっかりと考えて計画を立てる第一歩になったと思う。

このプログラムに参加することは個人的には大きな決断であったと思うが、良い経験であったと思う。当初の目的であった語学学習以上に国籍による考え方や背景の違いや年齢による経験の違いを実感して日本にいたら知ることはなかったであろう多くのものに触れることができたと思う。今回得た良い影響を忘れずにこれからの生活に生かしていきたいと思う。

聴講科目

日韓事情に関しては多くの人々が信じていることが正しいものになってしまうから日韓問題の要である歴史的な問題についてはどちらかが妥協することは難しいしその溝が修復される可能性はほとんどないけれど、そのほかの分野では良好な関係を築くことが可能であるということを知った。日韓について知っているようで知らなかったことがたくさんあったし、歴史的な観点以外にもさまざまな視点から日韓関係について見直してみる経験になったと思う。

もう一つの聴講授業では普段学ぶことのない文学について学習することができ、良い経験であったと思う。学生それぞれがどのようなプロセスでその思考に至ったのかを説明する中で、そのような切り口もあるのだなと考えさせられる授業であった。さまざまな問いが投げかけられる中で、自分が小説を読んだときには引っ掛からなかったことが、確かにどうしてそうなのだろう、という疑問になってより深く考えていくことができたと思う。

<事務局使用欄> 受付番号:

-

特に文学的文章を読むときには疑問を持ちながら読んで、答えを考えながら進んでいくことが醍醐味でもあると知ったので、これからはこの点を意識して読書をする機会を作っていきたいと感じた。